

嚥下内視鏡（VE）検査について①

○嚥下内視鏡（VE）検査とは

鼻腔から細いファイバースコープをのどに挿入し、咽頭部の形や動きの状態を直視下で観察する検査です。実際に飲食物を嚥下していただき、咽頭を食物が通過していく状況を観察記録し、気管に入ったり、残留しやすいかなどを調べます。また、日常的に、のどに痰や唾液が溜まりやすいかなども、観察することができます。これにより、現在の食事内容の適性や吸引の必要度などを考慮するための資料となります。”

○嚥下内視鏡（VE）検査の目的

摂食嚥下機能の障害を有する可能性のある方、のどに痰や唾液が溜まりやすく呼吸障害になりやすい方などに対し、以下の目的で行います。

- 1、 咽頭（のど）の働きや形状について、直接観察する
- 2、 食事後、咽頭に食物の残留があるか否かの確認をする
- 3、 食物の気管内誤嚥の確認をする
- 4、 咽頭にたんや唾液などの貯留状態を観察する

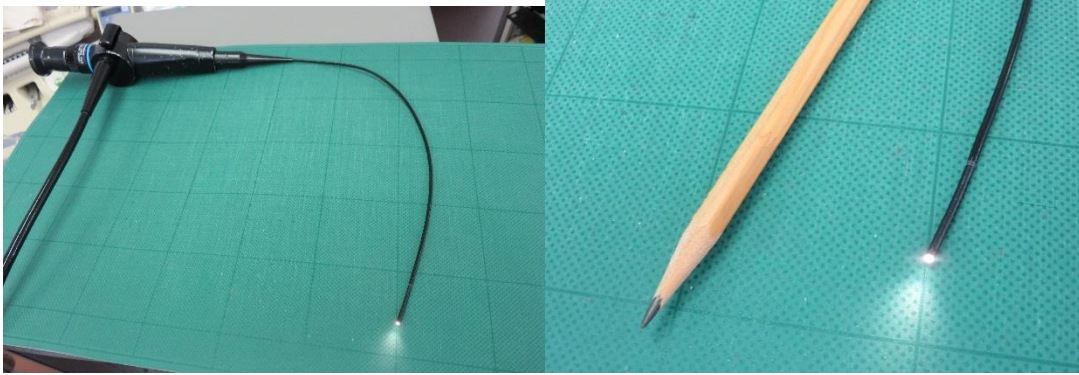
○VE 検査の限界と危険性

- ・ VE 検査は、鼻からファイバースコープを挿入するため、多少の違和感があります。このため、挿入した状態で飲食した場合の嚥下状態は、普段とは感覚的に若干違いがあるため、日常の嚥下や誤嚥の状況とは異なることがあります。検査の結果は、多少過大や過小に評価されることがあります。
- ・ この検査はあくまで、食事時の誤嚥を少しでも防止する参考にするためのものです。他の検査や食事場面の観察等から総合的に判断することになります。
- ・ 鼻から挿入するため、急に動いたりして、粘膜を傷つけたりすることが稀にありますが、細心の注意で行います。ただし、危険防止のため、体や頭部の一部を抑制することがありますので、ご承知ください。
- ・ 誤嚥しやすい患者さんでは、食物の気道閉塞を引き起こす可能性があります。そのため、安全性の高い食品から少量ずつ摂取していただきます。必要に応じて血液中の酸素飽和度を図る機器をつけ、行うこともあります。

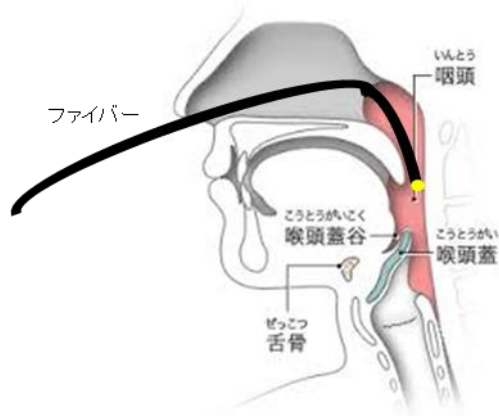
嚥下内視鏡（VE）検査について②

① ファイバースコープ(内視鏡)

お鼻から挿入し、のどの奥の様子を観察します。(写真は小児用)



② のどの構造と実際の挿入位置



ファイバーは鼻の奥、左図の位置に静止させ、咽頭を内視鏡で観察しながら食事を食べていただきます。(場合によっては観察のみとなります)

③ 実際の画像

飲み込み:画像下方から食べものが下図の白線のように移動、上方の食道へ流れ込みます。

